

科目名 【英】	経営マネジメント Office Management			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	5

担当教員	内藤 睦	実務者経験	
------	------	-------	--

学習内容	卒業を控えた学生が、整骨院等でキャリアを積み、将来独立開業・整骨院での院長などとして活躍する際に役立つような内容として、「キャリアプランニング」「起業」「リスクマネジメント」について学ぶ。
到達目標	社会に出てからの経営の手法を学び、将来独立、整骨院等の経営をするときの基礎知識を習得する

準備学習 時間外学習	次回内容関連する資料を読む、課題に取り組むなどの予習・復習が必要。
使用教材	各科目に合わせたレジュメを使用する。
留意点 備 考	本講義は、グループワークを交えた授業を実施するため、毎回積極的な参加が求められる。

成績評価	復習テスト50%＋最終日のグループ発表50%で評価する。
------	------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		キャリアプランニング	【内藤】・将来を想像し、自分らしい仕事について考える 自分の棚卸しをし、キャリアプランを立てる。将来のことを真剣に考えることで計画の重要性に気づき、今後のキャリアイメージやプランニングを考える。
2		経営とは	【上田】・成功店舗と失敗店舗の違いについて 普段、通り道にある店舗・普段、自分がよく使っている店舗について、経営者の目で分析することの楽しさを知る。
3		店舗管理の基礎知識	【上田】・簡易テスト：失敗事例について、改善可能性の検討 前回の授業と併せて、店舗管理のセオリーを知ること、日々の生活の中で経営について考えるクセを身に付ける。
4		消費者の購買プロセスについて	【上田】・簡易テスト：スーパーの商品配置（何をどこに置くのが効率的か） 自分が購買にいたるプロセスを経営科学の観点から理解する。
5		独立、開業する際に必要な知識	【上田】・簡易テスト：購買プロセスの復習テスト 整骨院の他、他業種の開業についても少し学び、世の中の会社・お店がどのようにできているかを合わせて知る。
6		利益をあげるということ（収益計算と人材雇用について）	【上田】・簡易テスト：開業に必要な知識についての復習テスト 売上・費用・利益の関係について理解する。 事業計画書の概要について大筋を理解する。
7		全体テスト	【上田】・経済人として、心得のおさらい 具体的な目標設定
8		療養費の支給基準 1	【布施】 療養費、医療費、国民医療費について説明ができる。
9		療養費の支給基準 2	【布施】 初検料、初検時相談支援料、往療料について説明ができる。
10		療養費の支給基準 3	【布施】 骨折脱臼における近接算定について説明ができる。
11		療養費の支給基準 4	【布施】 受領委任の取り扱いについて説明ができる。
12		療養費の支給基準 5	【布施】 保険施術、療養費の請求について説明ができる。
13		療養費の支給基準 6	【布施】 施術録について説明ができる。
14		療養費の支給基準 7	【布施】 柔道整復施術療養費、支給申請書について説明ができる。
15		試験・解説	【布施】 総合試験と解説

科目名 【英】	関係法規 Legal Issues in medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	7

担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	------	-------	-----------------------------------

学習内容	柔道整復師業務に従事する上で必要な法令、法規を学ぶ。
到達目標	柔道整復師業務に従事する上で必要な法令、法規を説明することができ、適正な柔道整復師業務を行うことができるようになる。

準備学習 時間外学習	関係法規の予習が必要。
使用教材	教科書『関係法規』、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		法の体系	法の体系について説明することができる。
2		患者の権利	患者の権利について説明することができる。
3		医療過誤とリスクマネジメント	医療過誤とリスクマネジメントについて説明することができる。
4		柔道整復師法の目的・定義	柔道整復師法の目的・定義について説明することができる。
5		柔道整復師免許	柔道整復師免許について説明することができる。
6		柔道整復師名簿	柔道整復師名簿について説明することができる。
7		柔道整復師免許証	柔道整復師免許証について説明することができる。
8		合格証書、合格証明書	合格証書、合格証明書について説明することができる。
9		業務範囲と禁止	業務範囲と禁止について説明することができる。
10		施術所	施術所について説明することができる。
11		広告、罰則	広告、罰則について説明することができる。
12		医療法	医療法について説明することができる。
13		指定登録機関、指定試験機関	指定登録機関、指定試験機関について説明することができる。
14		社会福祉関係法規	社会福祉関係法規について説明することができる。
15		試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	柔道 4 Judo 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	5

担当教員	中村 義毅	実務者経験	1997年5月整骨院を開業し現在に至る。 同整骨院にて柔道整復術を行う。
------	-------	-------	---

学習内容	柔道の技術と礼儀作法を学び、形（足技）を習得する。
到達目標	柔道を通して、技だけではなく礼儀作法に重点を置き社会人基礎力を習得する。 形（足技）が出来るようになる。

準備学習 時間外学習	1.2年次に履修した礼法、受け身などを授業前に予習しておく
使用教材	柔道衣
留意点 備 考	準備運動としてストレッチや受身を取り外傷を予防する。

成績評価	実技評価100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		形（腰技）1	礼法、受身、浮腰を行うことができる。
2		形（腰技）2	礼法、受身、払腰（右）を行うことができる。
3		形（腰技）3	礼法、受身、払腰（左）を行うことができる。
4		形（腰技）4	礼法、受身、釣込腰（右）を行うことができる。
5		形（腰技）5	礼法、受身、釣込腰（左）を行うことができる。
6		形（腰技）6	腰技を左投、右投を行うことができる。
7		形（足技）1	礼法、受身、送り足払い（右）を行うことができる。
8		形（足技）2	礼法、受身、送り足払い（左）を行うことができる。
9		形（足技）3	礼法、受身、支え釣り込み足（右）を行うことができる。
10		形（足技）4	礼法、受身、支え釣り込み足（左）を行うことができる。
11		形（足技）5	礼法、受身、内股（右）を行うことができる。
12		形（足技）6	礼法、受身、内股（左）を行うことができる。
13		形（足技）7	足技を左投、右投を行うことができる。
14		復習	礼法、形、約束乱取の練習 卒業実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。
15		復習	礼法、形、約束乱取の練習 卒業実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。

科目名 【英】	柔道概論 Introduction of Judo			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	5

担当教員	林 宏明	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	------	-------	----------------------------------

学習内容	1年生で履修した柔道整復学総論の国家試験対策としての復習を行っていく。
到達目標	柔道整復学総論と各論を結びつかせ引き出すことができ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔整総論 1	骨損傷（分類、症状） 分類・症状の落とし穴となっているところを見直し、過去問題を解くことができる。
2		柔整総論 2	骨損傷（合併症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。
3		柔整総論 3	骨損傷（続発症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。
4		柔整総論 4	骨損傷（後遺症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。
5		柔整総論 5	骨損傷（小児・高齢者骨折の特徴、癒合日数、治癒経過、予後、影響因子） 年齢での治癒の違いと、影響因子を理解し、過去問題を解くことができる。
6		柔整総論 6	関節損傷（構造、分類、関節構成組織損傷） 関節構成組織を見直し、過去問題を解くことができる。
7		柔整総論 7	脱臼（分類、症状、合併症、整復障害、予後） 分類・症状などの落とし穴となっているところを見直し、過去問題を解くことができる。
8		柔整総論 8	筋損傷と腱損傷 筋・腱損傷の特徴を捉え、過去問題を解くことができる。
9		柔整総論 9	末梢神経損傷、血管系・リンパ系損傷、皮膚損傷 神経・脈管損傷の特徴を捉え、過去問題を解くことができる。
10		柔整総論 10	治療法（固定法、後療法） 固定法と後療法のポイントを見直し、過去問題を解くことができる。
11		柔整総論 11	評価、治療法（整復法、初期処置） 整復法と初期処置のポイントを見直し、過去問題を解くことができる。
12		柔整実技総論 1	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（損傷の診察、鑑別診断、合併症の有無、説明と同意） 診察の流れを把握することができる。
13		柔整実技総論 2	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（徒手整復、固定法、後療法、治癒の判定、予後） 整復から治癒に至るまでの流れを把握することができる。
14		柔整実技総論 3	肩部の痛みを訴える患者の診察をするときの考え方 鑑別を行い、各疾患の導き出すことができる。
15		試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	後療法学 Arter Treatment of injury			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	6

担当教員	奈良 俊二	実務者経験	1998年4月～2019年3月 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	外傷の経過および治療判断方法を学び、固定除去後の治療法を理解する。 また、臨床に診やすい軟部組織損傷の治療法を学ぶ。
到達目標	学んだことを臨床実習、卒業後の臨床で役立てるよう、説明、実施することができるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	柔道整復学理論編第6版、柔道整復学実技編第2版
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	包帯学	包帯学について理解し、説明できるようになる。	
2	上肢疾患	肩部軟損（腱板損傷、インピンジメント症候群、上腕二頭筋長頭腱損傷）について理解し、説明できるようになる。	
3	上肢疾患	末梢神経障害（正中神経、尺骨神経、橈骨神経）について理解し、説明できるようになる。	
4	上肢疾患	手指の軟損について理解し、説明できるようになる。	
5	下肢疾患	膝関節部軟損（ACL・PCL、MM・LM）について理解し、説明できるようになる。	
6	下肢疾患	大腿部軟損（大腿四頭筋損傷、ハムストリングス損傷、下腿三頭筋損傷、アキレス腱損傷）について理解し、説明できるようになる。	
7	下肢疾患	股関節脱臼について理解し、説明できるようになる。	
8	上肢疾患	橈骨手根関節脱臼、手根骨脱臼について理解し、説明できるようになる。	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

t

科目名 【英】	外傷予防理論実習 2 Injury Prevention Conditioning Practices 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成 1 4 年 4 月より鍼灸整骨院開院 院長として勤務する
------	-------	-------	---------------------------------

学習内容	運動生理学の観点から競技者の身体的変化を理解し、予防やトレーニングの基礎知識を習得、また実技により体得する
到達目標	運動生理学の基礎、ストレッチ、トレーニング、競技者の予防について理解を深める

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の復習
使用教材	競技者の外傷予防
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験 100 点満点
------	--------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動生理学 1	オリエンテーション 運動生理学について基礎的な内容と今後の勉強の進め方を理解する	
2	運動生理学 2	レジスタンストレーニング 持久力トレーニングについて 筋力トレーニングの基礎知識を理解する	
3	運動生理学 3	エネルギー代謝 ATP-CP系 解糖系 TCA回路 運動時のエネルギー代謝について理解する	
4	運動生理学 4	筋繊維タイプ アイソメトリックコントラクション アイソトニックコントラクション 筋線維の種類や筋収縮の様式を理解する	
5	運動生理学 5	呼吸中枢 最大換気量 最大酸素摂取量 AT LT 酸素借 運動時の呼吸について理解する	
6	運動生理学 6	循環 競技者の血圧 運動時の循環系についての理解を深める	
7	運動生理学 7	運動とホルモン 性ホルモン 運動時のホルモン分泌について理解する	
8	運動生理学 8	有酸素作業能力 間欠的作業能力 競技者の運動生理学的特徴について理解する	
9	外傷予防概論 1	外傷の発生要因 内的要因 外的要因について理解を深める	
10	外傷予防概論 2	外傷の予防対策 外傷予防の基礎知識を理解する	
11	外傷予防実技 1	タイトネステスト 関節弛緩性テスト 実際の検査法を理解し実践する	
12	外傷予防実技 1	アイシング ストレッチング 実際の方法を理解し実践する	
13	外傷予防実技 1	スポーツマッサージ スポーツテーピング 実際の方法を理解し実践する	
14	外傷予防実技 1	体幹強化トレーニング 下肢安定性向上トレーニング 肩甲帯トレーニングなど 種々のトレーニングについて方法を学び実践する	
15	総復習	理論実技の総復習 理論実技ともに復習し理解を深める	

科目名 【英】	柔整外傷学実習 1 Judo Therapy and Traumatology Practice1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	5

担当教員	西尾 仁孝	実務者経験	平成3年4月から鍼灸整骨院を開業し、平成16年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。
------	-------	-------	---

学習内容	肋骨骨折、ボクサー骨折、PIP関節脱臼、下腿骨骨幹部骨折、アキレス腱断裂について理論、臨床知識、固定法を学ぶ。
到達目標	卒業実技試験及び認定実技試験科目の実技の習得目指しながら患者の身になり固定の実技力を高め臨床応用を身に着ける事を旨とする。

準備学習 時間外学習	柔道整復学理論編、実技編の教科書で学習内容項目を予習する事が必要。
使用教材	固定法マニュアル
留意点 備 考	包帯、枕子など固定材料の準備物忘れに留意する。副教材として柔道整復学理論編、実技編の教科書を持参して受講する事が望ましい。

成績評価	実技審査100%にて評価する。
------	-----------------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		肋骨骨折の固定	肋骨骨折の理論を復習し固定出来るようになる。
2		肋骨骨折の固定	タイムを計り愛護的かつスムーズに固定出来るようになる。
3		ボクサー骨折の固定	ボクサー骨折の理論を復習し固定出来るようになる。
4		ボクサー骨折の固定	タイムを計り愛護的かつスムーズに固定出来るようになる。
5		PIP関節脱臼の固定	PIP関節脱臼の理論を復習し固定出来るようになる。
6		PIP関節脱臼の固定	タイムを計り愛護的かつスムーズに固定出来るようになる。
7		下腿骨骨幹部骨折の固定	下腿骨骨幹部骨折の理論を復習し固定出来るようになる。
8		下腿骨骨幹部骨折の固定	タイムを計り愛護的かつスムーズに固定出来るようになる。
9		アキレス腱断裂の固定	アキレス腱断裂の理論を復習し固定出来るようになる。
10		アキレス腱断裂の固定	タイムを計り愛護的かつスムーズに固定出来るようになる。
11		総復習	卒業実技試験のレベルまで深く理解してより臨床にそった固定が出来るようになる。
12		肋骨骨折の固定の復習	認定実技審査のレベルまで深く理解してより臨床にそった固定が出来るようになる。
13		ボクサー骨折、PIP関節脱臼の固定の復習	認定実技審査のレベルまで深く理解してより臨床にそった固定が出来るようになる。
14		下腿骨骨幹部骨折の固定	認定実技審査のレベルまで深く理解してより臨床にそった固定が出来るようになる。
15		アキレス腱断裂の固定の復習	認定実技審査のレベルまで深く理解してより臨床にそった固定が出来るようになる。
16		総復習	認定実技合格レベルを目指しながら助手を上手く指導し固定をスムーズに施術し臨床レベルで患者の状態を完全にコントロールする事が出来るようになる。

科目名 【英】	柔整外傷学実習 2 Judo Therapy and Traumatology Practice 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	5

担当教員	高田 昌辰	実務者経験	1989年5月～2020年4月 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔整理論 柔整実技（鎖骨骨折 上腕骨骨折 コーレス骨折 足関節損傷）
到達目標	基本的な整復法、固定法、後療法を理解する

準備学習 時間外学	
使用教材	実技マニュアル、柔道整復学実技編
留意点 備 考	

成績評価	実技５０％ 筆記５０％
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	鎖骨骨折	鎖骨骨折の診察および整復、固定について理解し説明することができるようになる。	
2	鎖骨骨折	鎖骨骨折の診察および整復ができるようになる。	
3	鎖骨骨折	鎖骨骨折の固定ができるようになる。	
4	上腕骨近位端骨折	上腕骨外科頸外転型骨折の診察および整復について理解し説明することができるようになる。	
5	上腕骨近位端骨折	上腕骨外科頸外転型骨折の診察および整復ができるようになる。	
6	上腕骨近位端骨折	上腕骨外科頸外転型骨折の固定ができるようになる。	
7	上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折の診察および整復、固定について理解し説明することができるようになる。	
8	上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折の固定ができるようになる。	
9	コーレス骨折	コーレス骨の診察および整復、固定について理解し説明することができるようになる。	
10	コーレス骨折	コーレス骨折の診察および整復ができるようになる。	
11	コーレス骨折	コーレス骨折の固定ができるようになる。	
12	足関節LCL損傷	足関節外側副靭帯損傷について理解し説明することができるようになる。	
13	足関節LCL損傷	足関節外側副靭帯損傷の固定ができるようになる。	
14	総復習	鎖骨骨折、上腕骨骨折、コーレス骨折、足関節外側副靭帯損傷の診察および整復ができるようになる。	
15	試験解説	前期試験解説	
16			

科目名 【英】	柔整外傷学実習 3 Judo Therapy and Traumatology Practice 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	7

担当教員	奈良 俊二	実務者経験	1998年4月～2019年3月 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	脱臼の診察法および整復法、固定法の座学、実習・実技
到達目標	脱臼の診察法および整復法、固定法を理解して説明することができるようになる。また、これらができるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	「実技マニュアル」、「柔道整復学実技編」教科書、および「柔道整復学理論編」教科書
留意点 備 考	

成績評価	実技100%ただし、新型コロナウイルスの関係で実技ができなかった場合は筆記テスト100%
------	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	鎖骨脱臼 1	肩鎖関節脱臼の診察および整復、固定を理解し説明することができるようになる。	
2	鎖骨脱臼 2	肩鎖関節脱臼の診察および整復ができるようになる。	
3	鎖骨脱臼 3	肩鎖関節脱臼の固定ができるようになる。	
4	肩関節脱臼 1	肩関節脱臼の診察および整復、固定を理解し説明することができるようになる。	
5	肩関節脱臼 2	肩関節脱臼の診察および整復ができるようになる。	
6	肩関節脱臼 3	肩関節脱臼の診察および整復ができるようになる。	
7	肩関節脱臼 4	肩関節脱臼の固定ができるようになる。	
8	肘関節脱臼 1	肘関節脱臼（肘内障含む）の診察および整復、固定を理解し説明することができるようになる。	
9	肘関節脱臼 2	肘関節脱臼（肘内障含む）の診察および整復法ができるようになる。	
10	肘関節脱臼 3	肘関節脱臼の固定法ができるようになる。	
11	膝関節側副靱帯損傷 1	膝関節側副靱帯損傷のテーピング固定ができるようになる。	
12	足関節側副靱帯損傷 1	足関節側副靱帯損傷のテーピング固定ができるようになる。	
13	総復習	肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼の診察及び整復、固定について実技練習する。	
14	膝関節側副靱帯損傷 2	膝関節側副靱帯・半月板損傷の診察および固定を理解し説明することができるようになる。	
15	足関節側副靱帯損傷 2	足関節側副靱帯損傷の診察および固定法を理解し説明することができるようになる。	

科目名 【英】	柔整外傷学実習 4 Medical Practice of Judo Therapy 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	1. 2

担当教員	山田 靖典	実務者経験	2001年～2008年まで整形外科勤務
------	-------	-------	---------------------

学習内容	医学の基礎となる解剖学・生理学を通じ病態を把握できるように学習する。 また国家試験において重要となる内容を重点的に学習していく。
到達目標	国家試験において担当範囲の必修80%一般60%の正答率を全員が獲得できるようにする。 また他の授業に対しても目的を持って勉強が出来るようにする。

準備学習 時間外学習	配付資料による事前学習
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『生理学』（南江堂）、『一般臨床医学』（医歯薬出版）、配布資料
留意点 備 考	授業では全員が傾聴できるようにする

成績評価	期末筆記試験70点　小テスト30点（授業内）
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		消化器解剖生理	消化器の役割、大まかな働きを理解する。口腔について理解する。
2		消化器解剖生理	食道から横隔膜について解剖の詳細と働きについて理解する。
3		消化器解剖生理	胃・腹膜の解剖、消化吸収について理解する。また前回までの内容理解のため小テストを実施
4		消化器解剖生理	小腸の解剖について区別できるようになり消化吸収について理解する。
5		消化器解剖生理	大腸の解剖を理解する。消化器全体の流れを理解する。消化器全体の復習小テストを実施
6		内分泌解剖生理 1	出題数の多い内分泌について総論を理解する。
7		内分泌解剖生理 2	下垂体のホルモンを理解する。
8		内分泌解剖生理 3	頸部のホルモンを理解する。
9		内分泌解剖生理 4	胸腹部のホルモンを理解する。
10		内分泌解剖生理 5	生殖器ホルモンを理解する。内分泌解剖生理の小テスト
11		内分泌疾患 1	解剖生理を元にした内分泌の疾患を理解する。
12		内分泌疾患 2	頭部から胸部にかけた内分泌疾患を理解する。
13		内分泌疾患 3	腹部以降の内分泌疾患を理解する。内分泌疾患小テスト
14		試験対策	前期試験末の試験について再復習
15		試験対策	前期末試験の解答解説

科目名 【英】	柔整外傷学実習 5 Judo Therapy and Traumatology Practice 5			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	5

担当教員	東 正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院所属
------	------	-------	---------------------------

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。
到達目標	関連領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書 生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	学期末試験100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		生理解剖学総論	身体の基本構造について復習する。
2		生理学総論	人体の基本構造と働きについて復習し理解を深める。
3		体液・血液の生理	体液の性質・特徴・役割について理解を深める。
4		体液・血液の生理	血液の性質・特徴について理解を深める。
5		循環	心臓の構造と働きについて理解を深める。
6		循環	体液・血液循環の調節について理解を深める。
7		呼吸	呼吸器官の構造・呼吸運動について理解を深める。
8		呼吸	血液ガスの体内動態について理解を深める。
9		尿の生成	泌尿器系の構造について理解を深める。
10		尿の生成	尿の生成と体液の調節について理解を深める。
11		神経系	神経系の各部の特徴と働きについて理解を深める。
12		神経系	神経の働きの基本について復習する。
13		神経系	神経系の機能と役割について復習する。
14		神経系	伝導路について復習し、関連疾患の症状と関連を理解を深める。
15		筋肉の構造と機能	筋肉の基本構造について理解を深める。

科目名 【英】	臨床実習 4 Clinical Training 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	6.7

担当教員	竹田 英樹	実務者経歴	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	附属整骨院にて臨床実習を行う。
到達目標	臨床の場において実際に活用できるレベルに到達する。 軟部組織損傷の発生機序、検査法のメカニズムを理解し適切な徒手検査を行い、疾病を鑑別することができる。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	患者の有無によりシミュレーションを行う。

成績評価	各実習時間内の評価
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	軟部組織損傷の徒手検査法	ガイダンス	
2	軟部組織損傷の徒手検査法	腱板損傷 ベインフルアークテスト、ドロップアームテスト、インピンジメントテスト、クレビタス	
3	軟部組織損傷の徒手検査法	上腕二頭筋長頭腱損傷 ヤーガソンテスト、スピードテスト、エルボーフレクションテスト	
4	軟部組織損傷の徒手検査法	十字靭帯損傷 引出/押込テスト、ラックマンテスト、サグサイン、N-テスト、グラビティテスト	
5	軟部組織損傷の徒手検査法	側副靭帯損傷 膝内反外反動揺テスト、グラビティテスト	
6	軟部組織損傷の徒手検査法	半月板損傷 マックマレーテスト、圧迫アブレイテスト、ワトソンジョーンズテスト	
7	軟部組織損傷の徒手検査法	肉離れ（大腿四頭筋） 抵抗下疼痛誘発テスト、伸張時疼痛誘発テスト	
8	軟部組織損傷の徒手検査法	肉離れ（ハムストリングス） 抵抗下疼痛誘発テスト、伸張時疼痛誘発テスト	
9	軟部組織損傷の徒手検査法	肉離れ（下腿三頭筋） 抵抗下疼痛誘発テスト、伸張時疼痛誘発テスト	
10	軟部組織損傷の徒手検査法	足関節外側側副靭帯損傷 内反内転動揺テスト、足関節引出テスト	
11	軟部組織損傷の徒手検査法	軟部組織損傷の徒手検査法 総復習1	
12	軟部組織損傷の徒手検査法	軟部組織損傷の徒手検査法 総復習2	
13	軟部組織損傷の徒手検査法	整骨院の物理療法の体験実技・腰部治療	
14	物理療法	牽引療法体験実習・頸部治療	
15	医療面接	医療面接の実際 1	
16	医療面接	医療面接の実際 2	

17		医療面接	医療面接の実際 3
18		手技療法	手技療法の実際（軽擦法・揉捏法）
19		手技療法	手技療法の実際（叩打法・圧迫法）
20		手技療法	治療体操（腰痛体操・コッドマン体操・バージャ体操）
21		シミュレーション	骨折患者の診察、治療シミュレーション
22		シミュレーション	脱臼患者の診察、治療シミュレーション
23		シミュレーション	捻挫患者の診察、治療シミュレーション

科目名 【英】	柔整医学演習 1 Medical Practice of Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	6

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2013年から整骨院にて整骨業務を行う
------	-------	-------	---------------------

学習内容	現代医学的な観点から運動学を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	運動学を学び、現代医学の臨床に応用可能な活用レベルにできる。かつ柔道整復師として国家試験に対応できるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。運動学と外科学の関連性を把握する
使用教材	運動学 副材料として解剖学生理学を持参する
留意点 備 考	パソコン マウス 使用

成績評価	試験 90%、小テスト 10%を加味する
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動学概論	運動学の目的を理解し体の基本的構造を理解できる	
2	運動学概論	運動の表し方を把握し説明を加え自ら説明する事が出来る	
3	身体運動と力学	身体運動と力学(ベクトル、動体に働く力、てこの力 滑車 運動の法則)を理解し説明できる	
4	運動の法則	運動の法則 質量 重量 力の単位を理解し説明する事が出来る	
5	仕事と力学的エネルギー	仕事と力学的エネルギーを理解し仕事 仕事率 力学的エネルギーを説明する事が出来る	
6	運動器の構造と機能	骨の構造 骨の構成要素 骨の発生と成長を理解し説明する事が出来る	
7	関節の構造	骨とビタミン ホルモン 関節の構造 関節の分類 骨格筋の構造を理解し説明する事が出来る	
8	骨格筋の構造	筋収縮 運動単位 神経筋接合部を理解し説明する事が出来る	
9	神経	神経細胞 神経線維 神経シナプス 自律神経を理解し説明する事が出来る	
10	神経	中枢神経 脊髄 脳 錐体路と錐体外路を理解し説明する事が出来る	
11	感覚	感覚と知性 感覚の種類 運動感覚 筋紡錘を理解し説明できる	
12	反射	反射と随意運動 反射弓 反射の種類 反射中枢 連合運動を共同運動について説明する事が出来る	
13	姿勢	姿勢重心立位姿勢安定性 抗重力筋 歩行周期 分析 歩行エネルギーについて説明する事が出来る	
14	運動発達	神経組織の成熟 乳幼児の運動発達 全身運動 歩行運動について説明できる	
15	試験解説	試験解説を行い、自分の弱点を見つけ出し克服する	

科目名 【英】	柔整医学演習 2 Medical Practice of Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	6

担当教員	東 正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院所属
------	------	-------	---------------------------

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。 柔整外傷学実習 5 の授業内容を補足してより実践的な理解の定着を図る。
到達目標	関連領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書 生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	学期末試験100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		生理解剖学総論	身体の基本構造について復習する。
2		生理学総論	人体の基本構造と働きについて復習し理解を深める。
3		体液・血液の生理	体液の性質・特徴・役割について理解を深める。
4		体液・血液の生理	血液の性質・特徴について理解を深める。
5		循環	心臓の構造と働きについて理解を深める。
6		循環	体液・血液循環の調節について理解を深める。
7		呼吸	呼吸器官の構造・呼吸運動について理解を深める。
8		呼吸	血液ガスの体内動態について理解を深める。
9		尿の生成	泌尿器系の構造について理解を深める。
10		尿の生成	尿の生成と体液の調節について理解を深める。
11		神経系	神経系の各部の特徴と働きについて理解を深める。
12		神経系	神経の働きの基本について復習する。
13		神経系	神経系の機能と役割について復習する。
14		神経系	伝導路について復習し、関連疾患の症状と関連を理解を深める。
15		筋肉の構造と機能	筋肉の基本構造について理解を深める。

t

科目名 【英】	柔整医学演習 3 Medical practice of judo therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成 1 4 年 4 月より鍼灸整骨院開院 院長として勤務する
------	-------	-------	---------------------------------

学習内容	整形外科を中心として柔道整復学も含み国家試験に必要な知識を学習する
到達目標	国家試験に向けた知識の習得

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の復習
使用教材	整形外科学 柔道整復学理論
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	柔整医学演習 1	オリエンテーション(心構えや勉強への取り組みを理解する)	
2	柔整医学演習 2	整形外科学領域における骨端症 先天性骨系統疾患についての基礎知識を学ぶ	
3	柔整医学演習 3	整形外科学領域における先天性骨系統疾患 全身性神経筋疾患の基礎知識を学ぶ	
4	柔整医学演習 4	整形外科学領域における全身性神経筋疾患 骨腫瘍についての基礎知識を学ぶ	
5	柔整医学演習 5	整形外科学領域における骨腫瘍についての基礎知識を学ぶ	
6	柔整医学演習 6	整形外科学領域における絞扼性神経障害、末梢神経障害についての基礎知識を学ぶ	
7	柔整医学演習 7	整形外科学領域における非感染性関節疾患 関節リウマチ リウマチ類似疾患についての基礎知識を学ぶ	
8	柔整医学演習 8	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する	
9	柔整医学演習 9	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する	
10	柔整医学演習 10	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する	
11	柔整医学演習 11	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する	
12	柔整医学演習 12	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する	
13	柔整医学演習 13	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する	
14	柔整医学演習 14	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する	
15	柔整医学演習 15	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する	

科目名 【英】	柔整医学演習 4 Medical Practice of judo Therapy 4			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	6

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	鍼灸整骨院で4年、付属整骨院で5年勤めていた。
------	--------	-------	-------------------------

学習内容	柔道整復師の問診、視診、打診、聴診など疾病を鑑別するにあたり、必要なスキルを学ぶ。
到達目標	国家試験の問題がスラスラ解けるようになる。

準備学習 時間外学習	講義に関する内容の教科書の読了
使用教材	一般臨床医学、国家試験過去問題
留意点 備 考	

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		診察概論 視診	姿勢について説明が出来るようになる。
2		診察概論 視診	意識状態について説明が出来るようになる。
3		診察概論 視診	不随意運動について説明が出来るようになる。
4		診察概論 視診	異常運動について説明が出来るようになる。
5		診察概論 視診	皮膚の異常について説明が出来るようになる。
6		診察概論 視診	顔面部・頸部の異常を説明出来るようになる。
7		診察概論 視診	頸部の異常を説明出来るようになる。
8		診察概論 視診	胸腹部の異常を説明出来るようになる。
9		診察概論 視診	上肢の異常を説明出来るようになる。
10		診察概論 視診	下肢の異常を説明出来るようになる。
11		診察概論 打診	正常打診について説明出来るようになる。
12		診察概論 打診	異常打診について説明出来るようになる。
13		診察概論 聴診	正常聴診と異常聴診について説明出来るようになる。
14		診察概論 聴診	異常聴診について説明出来るようになる。
15		まとめ	前期を振り返り総まとめを行い、問題がスラスラ解けるようになる。

科目名 【英】	柔整医学演習 5 Medical Practice of Judo Therapy 5			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2013年より整骨院にて整骨業務を行う
------	-------	-------	---------------------

学習内容	現代医学的な観点から病理学、解剖学、を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	病態細胞を学び、現代医学の臨床に応用可能な活用レベルにできる。かつ柔道整復師として国家試験に対応できるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。病理学との関連性を把握する
使用教材	病理学 解剖学 生理学
留意点 備 考	パソコン マウス 使用

成績評価	試験90% 小テスト10%程度を加味する
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	病理学とは	【方法、研究試験による分類診察方法】病理学に対する基本的な知識と方法に説明が出来る	
2	疾病の一般	【疾病の意義と分類疾病の分類病変と症候】疾病の分類や病気の状態を説明できる	
3	細胞障害	【退行性病変、代謝障害、萎縮、変性、壊死】細胞の異常や分類を説明できる	
4	代謝障害と疾病	【尿酸代謝異常カルシウム代謝異常、糖尿病、老化、壊死】代謝異常、糖尿病、黄疸などの説明が出来る	
5	アポトーシスと死	【死の定義、死の判定、死後の変化】アポトーシスと死の違いを説明できる	
6	循環障害1	【血液の循環障害、充血、うっ血虚血、出血血栓症】血液の循環障害やうっ血、虚血について説明できる	
7	循環障害2	【塞栓症、梗塞、浮腫、脱水症】梗塞の種類浮腫の成因脱水症の説明が出来る	
8	循環障害3	【高血圧症、高血圧症の分類】高血圧の病態生理を説明できる	
9	進行性病変	【肥大、過形成、再生、化生】肥大過形成再生化生の分類について説明できるレベル	
10	炎症	【炎症の分類炎症の原因炎症の形態による分類】炎症の病理解剖と原因分類を説明できる	
11	免疫異常アレルギー1	【免疫の仕組み、免疫不全、後天性免疫不全症候群】免疫の仕組みと抗原、抗体、先天性後天性の免疫不全の説明が出来る	
12	免疫異常アレルギー2	【自己免疫疾患、アレルギー】自己免疫疾患とアレルギー反応の分類、病態生理について説明できる	
13	腫瘍	【腫瘍の定義、腫瘍細胞、腫瘍の組織構造生体への影響、発がんの原因腫瘍の分類】腫瘍について病態生理、解剖学的診断、分類の説明が出来る	
14	先天性疾患	【先天性異常、遺伝子異常、染色体異常、奇形の原因、奇形成立の時期】先天性疾患の説明染色体異常の説明が出来る	
15	病因	【病因の一般、内因、外因、遺伝、ストレス】病因の外因、内因について説明が出来る	

科目名 【英】	社会保険論 Social Security			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	服部 博幸	実務者経験	1992年より病院並びに学校にて、鍼灸および柔道整復施術を行う。2016年より通所介護事業も立ち上げ、従事している。
------	-------	-------	--

学習内容	日本の社会保障の成り立ちや現状、制度について学ぶ。また、他の医療職と連携していく中で、必要とされる柔道整復師像について考える。
到達目標	臨床の場で、他の医療職と連携できるよう社会保障制度の理解と倫理感を持つことを目標とする。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	欠席された場合、次の授業に差し支えないよう配布プリントは事前にとり来てください。

成績評価	筆記試験結果（100％）を元に評価する。
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	社会保険論 1	【社会保険とは】 社会保険について、法的解釈および役割を理解する。	
2	社会保険論 2	【社会保険制度とは 1】 今後の社会保障制度の基本となる地域包括ケアシステムについて理解する。	
3	社会保険論 3	【社会保険制度とは 2】 公的年金制度について、理解する。	
4	社会保険論 4	【社会保険制度とは 3】 介護保険制度、社会福祉・公的扶助・公衆衛生について理解する。	
5	社会保険論 5	【医療保険制度とは 1】 医療保険の目的と意義について理解する。	
6	社会保険論 6	【医療保険制度とは 2】 医療保険の3つの制度と保険者について理解する。	
7	社会保険論 7	【医療保険制度とは 3】 保険診療の財政の状況と課題について理解する。	
8	社会保険論 8	【医療保険制度とは 4】 保険診療報酬の請求の仕組みについて理解する。	
9	社会保険論 9	【医療従事者の職業倫理 1】 職業とその倫理について理解する。	
10	社会保険論 10	【医療従事者の職業倫理 2】 医療における倫理観と変化について理解する。	
11	社会保険論 11	【医療従事者の職業倫理 3】 受動整復師の職業倫理と社会的責任について理解する。	
12	社会保険論 12	【患者へのインフォームドコンセント】 医療行為の説明と同意について、説明内容と注意点について理解する。	
13	社会保険論 13	【医療における情報と責任】 個人情報の内容と管理方法など注意点について理解する。	
14	社会保険論 14	【ケーススタディ】 日々の臨床場でのトラブルに対する対応について、自ら検討する。	
15	社会保険論 15	【試験解説】	

科目名 【英】	柔整応用鑑別学 Judo Therapy Differential Diagnosis Advanced			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	5

担当教員	奈良 俊二	実務者経験	1998年4月～2019年3月 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復術が適用される疾患の鑑別
到達目標	脱臼範囲の国家試験範囲を習得する

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『施術の適応と医用画像の理解』（南江堂）
留意点 備 考	

成績評価	期末筆記100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔整応用鑑別学	施術の適応判断の必要性について理解し、説明することができるようになる。
2		柔道整復術の適否1	柔道整復術非適応が疑われる症状と所見を理解し、説明することができるようになる。
3		柔道整復術の適否2	損傷に類似した症状を示す内臓疾患を柔道整復術の適応症であるか峻別できるようになる。
4		柔道整復術の適否3	腰痛を訴える患者の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
5		類似疾患1	化膿性炎症が疑われる患者の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
6		類似疾患2	血流障害・末梢神経損傷を伴う損傷の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
7		類似疾患3	脱臼骨折が疑われる場合・外出血がある場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
8		類似疾患4	病的骨折および脱臼が疑われる場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
9		類似疾患5	意識障害や脊髄症状がみられる場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
10		神経、血管損傷1	異常呼吸がみられる場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
11		神経、血管損傷2	内臓損傷が疑われる場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
12		神経、血管損傷3	放射線の概要やX線像の一般撮影法を理解し、説明することができるようになる。
13		画像診断1	画像のデジタル化、CT画像の特性を理解し、説明することができるようになる。
14		画像診断2	MR I の見方を理解し、説明することができるようになる。
15		復習	超音波画像装置について理解し、説明することができるようになる。

科目名 【英】	柔整医学演習 6 Medical Practice of Judo Therapy 6			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	6

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2013年より整骨院にて整骨業務を行う
------	-------	-------	---------------------

学習内容	現代医学的な観点から病理学、解剖学、を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	外科学や病理学につながる解剖生理を学ぶことにより柔道整復師として臨床に応用できる知識を身に着ける

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。病理学や外科学との関連性を把握する
使用教材	解剖学 生理学
留意点 備 考	パソコン マウス 必要

成績評価	試験90% 小テスト10%程度を加味する
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		代謝の仕組み1	代謝の仕組みと栄養学を理解しそれについて説明できる
2		代謝の仕組み2	代謝の仕組みと栄養学を理解しそれについて説明できる
3		呼吸器の構造1	呼吸器の構造と理解ができそれについて説明が出来る
4		呼吸器の構造2	呼吸器の構造と理解ができそれについて説明が出来る
5		脳の構造1	脳の構造と理解神経系の基礎が分かっておりそれについて説明できる
6		脳の構造2	脳の構造と理解神経系の基礎が分かっておりそれについて説明できる
7		髄膜と脳脊髄液	髄膜と脳脊髄液を理解しそれについて説明できる
8		終脳、大脳半球	終脳、大脳半球を理解しそれについて説明できる
9		間脳	間脳について理解しそれについて説明できる
10		脳幹	中脳、橋、延髄について理解しそれについて説明できる
11		小脳	小脳の構造と機能について理解しそれについて説明できる
12		脊髄1	脊髄の法則を理解しそれについて説明できる
13		脊髄2	脊髄の内部構造を理解しそれについて説明できる
14		中枢神経系	中枢神経系の結果脳構造を理解しそれについて説明できる
15		伝導路	伝導路の反射について理解しそれについて説明できる

科目名 【英】	柔整医学演習 7 Medical Practice of Judo Therapy 7			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	6

担当教員	東 正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院所属
------	------	-------	---------------------------

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。 柔整医学演習14の授業内容を補足してより実践的な理解の定着を図る。
到達目標	それぞれの領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書 生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	学期末試験100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		筋肉の構造と機能	筋肉の収縮機構について理解を深める。
2		筋肉の構造と機能	筋肉の種類とその特徴について理解を深める。
3		感覚器官系	感覚系の分類・特殊感覚について復習し理解を深める。
4		感覚器官系	特殊感覚についてその構造と機能の理解を深める。
5		感覚器官系	一般感覚について特徴と働きの理解を深める。
6		感覚器官系	各種感覚の伝導路について理解を深める。
7		内分泌	内分泌系の機能と構造について理解を深める。個々のホルモンの働きを再確認して理解する。
8		生殖	生殖器系の発生、それぞれの働きについて理解を深める。
9		生殖	性周期・妊娠でのホルモンの変化について理解を深める。
10		骨	骨の形成に関与するホルモンについて理解を深める。
11		消化吸収	消化器系の構造と消化酵素について理解を深める。
12		消化吸収	消化器系の機能調節方法について理解を深める。
13		代謝・体温	栄養素の体内での変化と体温調節について理解を深める。
14		成長・競技 の生理的变化	成長・競技に伴う身体の生理的变化について理解を深める。
15		総合復習	苦手領域の補足を行う。国家試験問題で学習内容の総復習を行う。

科目名 【英】	柔整医学演習 8 Medical Practice of Judo Therapy 8			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	6

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	鍼灸整骨院で4年、付属整骨院で5年勤めていた。
------	--------	-------	-------------------------

学習内容	西洋医学系の病気にまつわる内容を機序から症状、治療に関しての幅広い内容を学ぶ為の解剖生理学を学ぶ
到達目標	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	時間外で問題等を使用し、復習および理解度を図り、次に繋げていけるようになる事が必須である。
使用教材	PC 配布資料 教科書【解剖学 生理学 病理学（南江堂）】
留意点 備 考	強い気持ちを持って臨む

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	神経系 1	終脳について説明することができる	
2	神経系 2	脳幹、大脳基底核について説明することができる	
3	神経系 3	神経伝導路について説明することができる	
4	神経系 4	末梢神経線維について説明することができる	
5	神経系 5	脳神経について説明できる	
6	筋系 1	筋線維について説明することができる	
7	筋系 2	シナプスについて説明することができる	
8	循環器 1	心電図について説明することができる	
9	循環器 2	心臓の弁構造と内圧の変化について説明することができる	
10	循環器 3	胎児循環について説明することができる	
11	呼吸器 1	気管系について説明することができる	
12	呼吸器 2	肺について説明することができる	
13	血液 1	血液の役割について説明することができる	
14	血液 2	造血・溶血について説明することができる	
15	総まとめ	全ての総ざらいを行い国家試験に対応できる説明力をつける	

科目名 【英】	柔整医学演習 9 Medical Practice of Judo Therapy 9			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	6

担当教員	水谷 遼香	実務者経験	鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	国家試験問題を解答できる能力を養い、それぞれ説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習・復習しておく。
使用教材	教科書『柔道整復師と機能訓練指導』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	筆記100%
------	--------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		発達と老化の理解Ⅰ-①	サルコペニアとフレイルの違いについて理解し、説明することが出来るようになる。
2		発達と老化の理解Ⅱ-①	老化・高齢者特有疾患について理解し、説明することが出来るようになる。
3		認知症の理解	認知症の原因・種類・症状・対応などについて理解し、説明することが出来るようになる。
4		介護保険制度	介護保険・要介護度・各種介護サービスについて理解し、説明することが出来るようになる。
5		介護の過程	介護サービス提供に必要な手続き等について理解し、説明することが出来るようになる。
6		高齢者介護とICF	高齢者介護における目標・ICFについて理解し、説明することが出来るようになる。
7		介護予防と生活機能の向上	介護予防の考え方について理解し、説明することが出来るようになる。
8		ロコモティブシンドローム	原因・ロコモテスト方法・評価方法について理解し、説明することが出来るようになる。
9		高齢者自立支援の理解Ⅰ-①	日常生活支援において注意すべき点について理解し、説明することが出来るようになる。
10		高齢者自立支援の理解Ⅱ-①	日常生活支援において注意すべき点について理解し、説明することが出来るようになる。
11		機能訓練指導Ⅰ-①	機能訓練指導員の定義・機能訓練の流れ・機能訓練実施計画書について理解し、説明することが出来るようになる。
12		機能訓練指導Ⅱ-①	機能訓練身体能力測定方法と評価方法について理解し、説明することが出来るようになる。
13		機能訓練指導Ⅲ-①	機能訓練の運動・要点・注意点について理解し、説明することが出来るようになる。
14		機能訓練指導Ⅳ-①	機能訓練の運動・要点・注意点について理解し、説明することが出来るようになる。
15		総復習	試験解説、今までの内容についての補填

科目名 【英】	柔整医学演習 10 Medical Practice of Judo Therapy 10			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	水谷 遼香	実務者経験	鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	国家試験問題を解答できる能力を養い、それぞれ説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習しておく。
使用教材	教科書『生理学』（南江堂）
留意点 備 考	

成績評価	筆記100%
------	--------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		発達と老化の理解Ⅰ-②	サルコペニアとフレイルの違いについて理解し、説明することが出来るようになる。
2		発達と老化の理解Ⅱ-②	老化・高齢者特有疾患について理解し、説明することが出来るようになる。
3		認知症の理解	認知症の原因・種類・症状・対応などについて理解し、説明することが出来るようになる。
4		介護保険制度	介護保険・要介護度・各種介護サービスについて理解し、説明することが出来るようになる。
5		介護の過程	介護サービス提供に必要な手続き等について理解し、説明することが出来るようになる。
6		高齢者介護とICF	高齢者介護における目標・ICFについて理解し、説明することが出来るようになる。
7		介護予防と生活機能の向上	介護予防の考え方について理解し、説明することが出来るようになる。
8		ロコモティブシンドローム	原因・ロコモテスト方法・評価方法について理解し、説明することが出来るようになる。
9		高齢者自立支援の理解Ⅰ-②	日常生活支援において注意すべき点について理解し、説明することが出来るようになる。
10		高齢者自立支援の理解Ⅱ-②	日常生活支援において注意すべき点について理解し、説明することが出来るようになる。
11		機能訓練指導Ⅰ-②	機能訓練指導員の定義・機能訓練の流れ・機能訓練実施計画書について理解し、説明することが出来るようになる。
12		機能訓練指導Ⅱ-②	機能訓練身体能力測定方法と評価方法について理解し、説明することが出来るようになる。
13		機能訓練指導Ⅲ-②	機能訓練の運動・要点・注意点について理解し、説明することが出来るようになる。
14		機能訓練指導Ⅳ-②	機能訓練の運動・要点・注意点について理解し、説明することが出来るようになる。
15		総復習	試験解説、今までの内容についての補填

科目名 【英】	柔整医学演習 12 Medical Practice of Judo Therapy 12			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	5

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2013年から整骨院にて整骨業務を行う
------	-------	-------	---------------------

学習内容	現代医学的な観点から、外科学を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	外科学を学び、現代医学の臨床に応用可能な活用レベルにできる。かつ柔道整復師として国家試験に対応できるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。運動学と外科学の関連性を把握する
使用教材	外科学 副材料として解剖学生理学を持参する
留意点 備 考	パソコン マウス 使用

成績評価	試験 90% 小テスト 10%を加味する
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		外科学とは	外科学の歴史を学び現代との相違点を理解し説明を行う事が出来る
2		損傷	損傷の分類 損傷の治癒 交通事故外傷 特殊な損傷 熱傷を理解し説明する事が出来る
3		損傷	救急処置 熱傷の合併症を理解 気道熱傷 その他の損傷を理解し 説明する事が出来る
4		炎症と外科感染症	炎症と外科感染症 感染発症のメカニズム 静脈瘤 梅毒 真菌症 動物の噛み傷を理解し説明できる
5		腫瘍	腫瘍 概念 発がん 分類良性 悪性 上皮性 非上皮性癌を理解し説明する事が出来る
6		ショック	心臓性 血液分布異常性 閉塞性ショック血圧 対処法を理解し説明できる
7		輸血と輸液	輸血の適用 一般輸血 高カロリー輸液について理解し説明できる
8		消毒と滅菌	主な消毒薬 皮膚消毒 機械の消毒 エチレンガス滅菌について説明できる
9		手術	手術の分類 各種手術法 皮膚切開 止血 結紮について理解し説明できる
10		麻酔	概要 全身麻酔 局所麻酔 気管挿管 神経ブロック 緩和ケアについて理解説明できる
11		移植と免疫	同系移植 同種移植 臓器の保存について理解し説明できる
12		出血と止血	出血の分類 出血血管の分類 原因について理解し説明できる
13		出血と止血	鼻出血 喀血 吐血 腹腔内出血器械的止血 物理的止血 化学的止血について理解し説明できる
14		救急処置	新派蘇生法 心臓マッサージ 人工呼吸 AEDNについて理解し説明できる
15		テストの解説	テストの解説をし相互理解を深め 国家試験合格に向けて理解する

科目名 【英】	柔整医学演習 13 Medical Practice of Judo Therapy 13			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	--

学習内容	柔道整復師において必要なリハビリテーション医学の知識を修得する。
到達目標	国家試験レベルの問題を6割正解できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学、生理学、運動学の復習をおこなうことを勧める。
使用教材	P C / 配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	後期末試験（筆記 100%）で評価する。
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	リハ医学の概念 1	リハビリテーション医学概論【概念・障害レベル】 障害分類について説明できる。	
2	リハ医学の概念 2	リハビリテーション医学概論【障害レベル・アプローチ・チーム医療】 障害分類に対応するアプローチについて説明できる。	
3	基礎医学	リハビリテーションに関する基礎医学【障害学・神経解剖・神経生理・神経損傷】 末梢神経麻痺・中枢神経麻痺の違いについて説明できる。	
4	評価と診断 1	評価と診断【MMT・筋力増強法】 MMTについて説明できる。	
5	評価と診断 2	評価と診断【運動失調】 運動調節機構の概要について説明できる。	
6	評価と診断 3	評価と診断【ADL】 ADLと評価法について説明できる。	
7	治療学 1	治療【理学療法・作業療法】 理学療法と作業療法の違いについて説明できる。	
8	治療学 2	治療【装具療法】 補装具の名称と適応について説明できる。	
9	リハビリの実際 1	各論【脳卒中①】 脳卒中の病態について説明できる。	
10	リハビリの実際 2	各論【脳卒中②】 急性期と回復期のリハビリテーションについて説明できる。	
11	リハビリの実際 3	各論【脊髄損傷】 損傷高位による機能予後を説明できる。	
12	リハビリの実際 4	各論【脳性麻痺】 脳性麻痺の3型を説明できる。	
13	国家試験対策 1	問題演習 国家試験問題を60%正答できる。	
14	国家試験対策 2	問題演習 国家試験問題を60%正答できる。	
15	まとめ	総復習 国家試験における重要範囲について説明できる。	

科目名 【英】	柔整医学演習 1 4 Medical Practice of Judo Therapy 14			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	5

担当教員	東 正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院所属
------	------	-------	---------------------------

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。
到達目標	それぞれの領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書 生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	学期末試験100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		筋肉の構造と機能	筋肉の収縮機構について理解を深める。
2		筋肉の構造と機能	筋肉の種類とその特徴について理解を深める。
3		感覚器官系	感覚系の分類・特殊感覚について復習し理解を深める。
4		感覚器官系	特殊感覚についてその構造と機能の理解を深める。
5		感覚器官系	一般感覚について特徴と働きの理解を深める。
6		感覚器官系	各種感覚の伝導路について理解を深める。
7		内分泌	内分泌系の機能と構造について理解を深める。個々のホルモンの働きを再確認して理解する。
8		生殖	生殖器系の発生、それぞれの働きについて理解を深める。
9		生殖	性周期・妊娠でのホルモンの変化について理解を深める。
10		骨	骨の形成に関与するホルモンについて理解を深める。
11		消化吸収	消化器系の構造と消化酵素について理解を深める。
12		消化吸収	消化器系の機能調節方法について理解を深める。
13		代謝・体温	栄養素の体内での変化と体温調節について理解を深める。
14		成長・競技 の生理的变化	成長・競技に伴う身体の生理的变化について理解を深める。
15		総合復習	苦手領域の補足を行う。国家試験問題で学習内容の総復習を行う。

科目名 【英】	柔整医学演習 15 Medical Practice of Judo Therapy 15			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	7

担当教員	山田 靖典	実務者経験	2001年～2008年まで整形外科勤務
------	-------	-------	---------------------

学習内容	医学の基礎となる解剖学・生理学を通じ病態を把握できるように学習する。 また国家試験において重要となる内容を重点的に学習していく。
到達目標	国家試験において担当範囲の必修80%一般60%の正答率を全員が獲得できるようにする。 また他の授業に対しても目的を持って勉強が出来るようにする。

準備学習 時間外学習	配付資料による事前学習
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『生理学』（南江堂）、『一般臨床医学』（医歯薬出版）、配布資料
留意点 備 考	授業では全員が傾聴できるようにする

成績評価	期末筆記試験70点 小テスト30点（授業内）
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		肝臓胆嚢膵臓	消化に関わる実質性臓器の働きについて理解する。
2		肝臓の解剖生理	肝臓の詳細な構造、働きについて全身での役割について理解する。
3		胆嚢膵臓	胆嚢膵臓の構造、働きを区別できるようにする。肝胆膵の解剖生理理解度を小テストで計る
4		消化器疾患	消化器疾患を理解するため解剖生理を簡単に振り返り疾患の大枠を捉える。
5		消化器疾患	口腔从小腸までの疾患について解剖生理を理解しつつ覚える。
6		消化器疾患	小腸から肛門にかけての疾患および自己免疫疾患についても理解する。消化管疾患の小テスト
7		消化器疾患	肝臓胆嚢膵臓の主な疾患について理解する。肝胆膵の小テストを実施する
8		泌尿器解剖生理 1	泌尿器の構造仕組みを理解する。
9		泌尿器解剖生理 2	泌尿器全体像を把握し理解する。
10		泌尿器解剖生理 3	膨満嚢から尿道まで男女別に区別し理解する。
11		泌尿器疾患 1	腎疾患における特徴を知り理解する。泌尿器解剖生理の小テスト
12		泌尿器疾患 2	腎臓実質における疾患を理解する。
13		泌尿器疾患 3	腎以降の泌尿器疾患を理解する。
14		試験対策	後期試験末の試験について再復習
15		試験対策	後期末試験の解答解説

科目名 【英】	柔整医学演習 16 Medical Practice of Judo Thrapy 16			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	5

担当教員	高田 昌辰	実務者経験	1989年5月～2020年4月 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。				
------	-------	-------	--	--	--	--	--

学習内容	認定実技と社会保障制度						
到達目標	認定実技合格に向けて、および社会保障制度の基本的な理解する						

準備学習 時間外学習							
使用教材							
留意点 備 考							

成績評価	筆記試験100%						
------	----------	--	--	--	--	--	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		認定実技に向けて	鎖骨骨折の整復、固定を体得し、実施することができるようになる。
2		認定実技に向けて	上腕骨骨折骨幹部骨折の固定を体得し、実施することができるようになる。
3		認定実技に向けて	コーレス骨折の整復、固定を体得し、実施することができるようになる。
4		認定実技に向けて	足関節損傷の固定を体得し、実施することができるようになる。
5		社会保障とは1	社会保障の3つの機能について理解し、説明することができるようになる。
6		社会保障とは2	あるべき社会と今後の社会保障について理解し、説明することができるようになる。
7		社会保障制度1	公的年金、介護保険の意義と仕組みについて理解し、説明することができるようになる。
8		社会保障制度2	医療保険の目的と意義について理解し、説明することができるようになる。
9		社会保障制度1	保険診療と医療保険財政について理解し、説明することができるようになる。
10		社会保障制度2	診療報酬制度について理解し、説明することができるようになる。
11		職業倫理1	医療従事者の職業倫理について理解し、説明することができるようになる。
12		職業倫理2	柔整師に必要な基本的な倫理観について理解し、説明することができるようになる。
13		職業倫理3	柔整師の社会的責任と対応について理解し、説明することができるようになる。
14		職業倫理4	医療における情報と責任について理解し、説明することができるようになる。
15		職業倫理5	社会保障制度と職業倫理のまとめ

科目名 【英】	柔整医学演習 17 Medical Practice of Judo Thrapy 17			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	服部 博幸	実務者経験	1992年より病院並びに学校にて、鍼灸および柔道整復施術を行う。2016年より通所介護事業も立ち上げ、従事している。
------	-------	-------	--

学習内容	上肢および下肢の骨折及び脱臼について部位ごとに学ぶ。
到達目標	臨床の場で使えるよう受傷原因から総合的に外傷を判断できるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	欠席された場合、次の授業に差し支えないよう配布プリントは事前にとりに来てください。

成績評価	筆記試験結果（100％）を元に評価する。
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	柔道整復学演習 1	【練習問題とそのフィードバック】 代表的な過去の国家試験問題を解き、現在の知識レベルを確認する。	
2	柔道整復学演習 2	【手・手指部の骨折・脱臼1】 手根骨骨折と脱臼について、理解を深める。	
3	柔道整復学演習 3	【手・手指部の骨折・脱臼2】 中手骨骨折と脱臼について理解を深める。	
4	柔道整復学演習 4	【手・手指部の骨折・脱臼3】 指骨の骨折と脱臼について理解を深める。	
5	柔道整復学演習 5	上肢の神経損傷 正中・頭骨・尺骨神経麻痺について、理解を深める。	
6	柔道整復学演習 6	【骨盤・下肢の骨折・脱臼 1】 骨盤骨骨折について理解を深める。	
7	柔道整復学演習 7	【骨盤・下肢の骨折・脱臼 2】 股関節脱臼について理解を深める。	
8	柔道整復学演習 8	【骨盤・下肢の骨折・脱臼 3】 大腿骨骨折について理解を深める。	
9	柔道整復学演習 9	【骨盤・下肢の骨折・脱臼 4】 膝関節・膝蓋骨+脱臼、下腿骨骨折について理解を深める。	
10	柔道整復学演習10	【骨盤・下肢の骨折・脱臼 5】 下腿骨遠位端骨折について理解を深める。	
11	柔道整復学演習11	【骨盤・下肢の骨折・脱臼 6】 足根骨骨折と脱臼について理解を深める。	
12	柔道整復学演習12	【上肢の骨折・脱臼 1】 上腕骨骨幹部骨折・肘周辺の骨折について理解を深める。	
13	柔道整復学演習13	【上肢の骨折・脱臼 2】 モンテギア・ガレアジ骨折、橈骨遠位端骨折について理解を深める。	
14	柔道整復学演習14	【総合復習】 難度の高い傷病について、再度確認し、理解を深める。	
15	柔道整復学演習15	【試験解説】	

科目名 【英】	柔整医学演習 18 Medical Practice of Judo Therapy 18			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	7

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	鍼灸整骨院で4年、付属整骨院で5年勤めていた。
------	--------	-------	-------------------------

学習内容	西洋医学系の病気にまつわる内容を機序から症状、治療に関しての幅広い内容を学ぶ。
到達目標	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	時間外で問題等を使用し、復習および理解度を図り、次に繋げていけるようになる事が必須である。
使用教材	PC 配布資料 教科書【一般臨床医学 解剖学 生理学 病理学（南江堂）】
留意点 備 考	強い気持ちを持って臨む

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		神経系疾患 1	脳卒中について説明することができる
2		神経系疾患 2	パーキンソン病について説明することができる
3		神経系疾患 3	伝導路疾患について説明することができる
4		神経系疾患 4	筋萎縮性側索硬化症について説明することができる
5		神経系疾患 5	脳神経が障害される疾患について説明できる
6		筋系疾患 1	進行性筋ジストロフィーについて説明することができる
7		筋系疾患 2	重傷筋無力症について説明することができる
8		循環器疾患 1	虚血性心疾患について説明することができる
9		循環器疾患 2	心臓弁膜症について説明することができる
10		循環器疾患 3	先天性心疾患について説明することができる
11		呼吸器疾患 1	慢性閉塞性肺疾患について説明することができる
12		呼吸器疾患 2	肺炎、肺癌について説明することができる
13		血液疾患 1	貧血疾患について説明することができる
14		血液疾患 2	汎血球減少症について説明することができる
15		総まとめ	全ての疾患の総ざらいを行い国家試験に対応できる説明力をつける

科目名 【英】	柔整医学演習 19 Medical Practice of Judo Therapy 19			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	5

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	上肢や下肢の軟部組織損傷の発生機序・症状・所見・検査法・治療法を学ぶ。 各傷病の部位と病態を関連して学ぶ。
到達目標	軟部組織損傷の発生機序、検査法のメカニズムを理解し疾病を鑑別することができる。 柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験を実施し100%評価する。
------	-------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	ガイダンス・ 肩の軟部組織損傷	肩の鑑別疾患(腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、五十肩)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
2	膝の軟部組織損傷	膝の鑑別疾患(内側半月板損傷、内側側副靭帯損傷、前十字靭帯損傷)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
3	足の軟部組織損傷	足部の鑑別疾患(前距腓靭帯損傷、二分靭帯損傷)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
4	まとめ	肩・膝・足部の疾患まとめ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
5	肘の軟部組織損傷	肘の鑑別疾患(野球肘・上腕骨外側上顆炎)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
6	手関節の 軟部組織損傷	手関節の鑑別疾患(三角線維軟骨複合体損傷、キーンベック病)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
7	指の軟部組織損傷	指の鑑別疾患(ドケルバン病、ロッキングフィンガー)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
8	指の軟部組織損傷	指の鑑別疾患(スワンネック変形、ボタン穴変形)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
9	股の軟部組織損傷	股の鑑別疾患(ベルテス病、大腿骨頭すべり症、単純性股関節炎)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
10	股の軟部組織損傷	股の鑑別疾患(大腿骨頭壊死・股関節拘縮)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
11	下腿の 軟部組織損傷	下腿の鑑別疾患(コンパートメント症候群、アキレス腱断裂)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
12	足部の 軟部組織損傷	足部の鑑別疾患(シンスプリント・有痛性三角骨障害、有痛性外脛骨障害)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
13	足部の 軟部組織損傷	足部の鑑別疾患(第一キーラー病、フライバーグ病)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
14	まとめ	股・下腿・足部の疾患まとめ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
15	定期試験	軟部組織損傷について基礎的な問題を答えることができる。	

科目名 【英】	柔整医学演習 20 Medical Practice of Judo Therapy 20			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	7

担当教員	岩崎 英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。
------	-------	-------	-------------------------------

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行う。
到達目標	卒後に役立つ知識、技術を幅広く習得し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	配布したプリントを復習する
使用教材	柔道整復学理論編、実技編、解剖学
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		骨盤部の損傷	骨盤骨折について理解し説明することができる。
2		股関節部の損傷 1	大腿骨頭部骨折、大腿骨頸部骨折について理解し説明することができる。
3		股関節部の損傷 2	大腿骨転子部骨折、大腿骨転子下骨折、股関節脱臼 1 について理解し説明することができる。
4		股関節部の損傷 3	股関節脱臼 2 について理解し説明することができる。
5		大腿部の損傷	大腿骨骨幹部骨折について理解し説明することができる。
6		膝関節部の損傷 1	大腿骨顆上骨折、大腿骨骨端線離開、大腿骨顆部骨折、内側側副靱帯付着部の裂離骨折について理解し説明することができる。
7		膝関節部の損傷 2	脛骨顆部骨折、脛骨顆間隆起骨折について理解し説明することができる。
8		膝関節部の損傷 3	脛骨粗面骨折、腓骨頭単独骨折について理解し説明することができる。
9		膝関節部の損傷 4	膝関節脱臼、膝蓋骨骨折、膝蓋骨脱臼について理解し説明することができる。
10		下腿部の損傷 1	下腿近位端部骨折、下腿骨幹部骨折について理解し説明することができる。
11		下腿部の損傷 2	下腿遠位端部骨折、足関節の脱臼骨折について理解し説明することができる。
12		足関節部の損傷	足根骨骨折、足関節の脱臼、中足骨骨折について理解し説明することができる。
13		足・趾部の骨折 鎖骨部の損傷	趾骨骨折、鎖骨骨折、鎖骨の脱臼について理解し説明することができる。
14		肩関節部の損傷 1	上腕骨近位端部骨折について理解し説明することができる。
15		肩関節部の損傷 2	上腕骨骨幹部骨折について理解し説明することができる。

科目名 【英】	柔整医学演習 2 1 Medical Practice of Judo Therapy 21			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	5

担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	------	-------	-----------------------------------

学習内容	国家試験の必修問題に出題される実技範囲について学ぶ
到達目標	国家試験の必修問題を解くことができる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』『柔道整復学 実技編』 配布プリント
留意点 備 考	柔道整復学理論編と実技編の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		定型的鎖骨骨折①	定型的鎖骨骨折について説明することができる
2		定型的鎖骨骨折②	定型的鎖骨骨折について説明することができる
3		上腕骨外科頸外転型骨折①	上腕骨外科頸外転型骨折について説明することができる
4		上腕骨外科頸外転型骨折②	上腕骨外科頸外転型骨折について説明することができる
5		上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折	上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折について説明することができる
6		コーレス骨折①	コーレス骨折について説明することができる
7		コーレス骨折②	コーレス骨折について説明することができる
8		第5中手骨頸部骨折①	第5中手骨頸部骨折について説明することができる
9		第5中手骨頸部骨折②	第5中手骨頸部骨折について説明することができる
10		肋骨骨折①	肋骨骨折について説明することができる
11		肋骨骨折②	肋骨骨折について説明することができる
12		肩鎖関節上方脱臼①	肩鎖関節上方脱臼について説明することができる
13		肩鎖関節上方脱臼②	肩鎖関節上方脱臼について説明することができる
14		肩関節烏口下脱臼①	肩関節烏口下脱臼について説明することができる
15		肩関節烏口下脱臼②	肩関節烏口下脱臼について説明することができる

科目名 【英】	柔整医学演習 2 2 Medical Practice of Judo Therapy 22			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	7

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	鍼灸整骨院で4年、付属整骨院で5年勤めていた。
------	--------	-------	-------------------------

学習内容	国家試験対策に必要な柔道整復学理論を学ぶ
到達目標	教授範囲の80%は正解出来るようにする。

準備学習 時間外学習	軟部組織について解剖学を事前に理解したうえで講義に臨めるように
使用教材	柔道整復学理論編、実技編（南江堂）
留意点 備 考	

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		体幹 1	肋間筋損傷 肋間筋損傷について機序と症状を説明できるようになる
2		体幹 2	長胸神経麻痺 長胸神経麻痺について機序と症状を説明できるようになる
3		頸部 1	頸椎症 頸椎症について機序と症状、検査法を説明できるようになる
4		頸部 2	胸郭出口症候群 胸郭出口症候群について機序と症状、検査法を説明できるようになる
5		上肢 1	五十肩 五十肩の機序から経過、治療法まで説明できるようになる
6		上肢 2	SLAP損傷、リトルリーガー肩 各症例の機序から症状、治療まで説明できるようになる
7		上肢 3	野球肘、テニス肘 各症例の機序から症状、治療まで説明できるようになる
8		上肢 4	上肢の末梢神経損傷 各症例の症状、違いを説明できるようになる
9		上肢 5	手指の軟部組織損傷 デュブイトラン拘縮、変形性関節症の機序、鑑別について説明できるようになる
10		下肢 1	股関節拘縮、単純性股関節炎 拘縮の症状と鑑別について説明できるようになる
11		下肢 2	膝の軟部組織損傷 半月板、側副靱帯、十字靱帯損傷の違いを説明できるようになる
12		下肢 3	膝の軟部組織損傷 2 膝蓋骨軟化症、オスグッドシュラッター病について説明できるようになる
13		下肢 4	足の軟部組織損傷 1 内反捻挫と外反捻挫の違いを説明できるようになる
14		下肢 5	足の軟部組織損傷 2 足根管症候群、モートン病の違いを説明できるようになる
15		まとめ	全ての疾患を説明および理解がつかないようにする。